

2020年3月24日付 韓国環境部プレスリリース

春季、イノシシ ASF 拡散遮断および農場単位防疫強化

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1359020&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

ASF 中央事故収拾本部は野生イノシシ ASF 拡散を遮断し、養豚農場への伝播を防ぐために関係部署協力を強化する。

ASF は昨年 10 月 9 日以後、飼育豚での発生はないが、坡州（パジュ）、漣川（ヨンチョン）、鉄原（チョルウォン）、華川（ファチョン）地域の野生イノシシでは引き続き発生している。（3.24 現在合計 421 件）

特に、3 月末以降は野生イノシシが出産期を迎え、イノシシ个体数が増える。さらに、農業開始に伴い発生地域内の車両や人の出入りが増えれば、イノシシの ASF 対応がより一層困難となることが予想される。

春季の防疫が困難となることを見越し、農食品部と環境部、国防部は ASF 防疫に総力を挙げて対応する計画である。

環境部はイノシシ捕獲方式を多角化して、搜索を通じて死体全面除去を目指すとともに、広域フェンスを補強して野生イノシシ ASF 拡散遮断のために総力で対応する。

広域フェンス内地域のイノシシ个体数低減のための捕獲活動を継続し、捕獲檻/罠設置も大幅に増加させる計画である。（捕獲檻 440 個→515 個、罠 220 個→625 個）

市・郡別に捕獲檻管理班を置き、誘引と適正位置選定等を通して捕獲檻と捕獲罠の設置効果を最大化する。

広域フェンス郊外周辺地域は、ASF 拡散リスクを低減させるために、京畿道（キョンギド）と江原道（カンウォンド）合計 8 個の市・郡*に捕獲ベルトを設定し、南から北への集中捕獲を実施するなど事前にイノシシ个体数を減少させる。

* 江原（カンウォン）地域:楊口（ヤング）・春川（チュンチョン）・麟蹄（インジェ）・古城（コソン）/京畿（キョンギ）地域:抱川（ポチョン）・加平（カピョン）・楊州（ヤンジユ）・東豆川（トンドウチョン）

イノシシ死体を迅速に除去するために抱川（ポチョン）・楊口（ヤング）など発生地域周辺を含んだ8個の市・郡*を81個の区域に区画化し、特に未確認地域として残っている山岳地帯で死体をくまなく搜索する。

* 坡州（パジュ）、漣川（ヨンチョン）、鉄原（チョルウォン）、華川（ファチョン）、抱川（ポチョン）、楊口（ヤング）、麟蹄（インジェ）、春川（チュンチョン）

また、漣川（ヨンチョン）では、抱川（ポチョン）での拡散を防止するために漢灘江（ハントガン）南に広域フェンスを追加設置し、華川（ファチョン）では、楊口（ヤング）での野生イノシシASF拡散を遮断するため、華川郡（ファチョンゲン）にある破虜湖（パロホ）南側と海山東側に設置中の広域フェンスを3月中に設置完了させる予定である。

3月末までに、東西横断広域フェンスと楊口（ヤング）南北終端フェンスなど既存広域フェンスに対し、村区間(47ヶ所)の補強も完了する。

また、農食品部・国防部とともに陽性個体発生地点周辺のイノシシ生息地、近隣農耕地、境界地域河川、農業従事者の民間制限線出入り車両など環境試料を定期的に調査し、ウイルス拡散状況を持続的にモニタリングする。

COVID-19防疫および対民間支援に総力を挙げている国防部は、ASF拡散防止のために軍の役割が重要であるとの共通認識の下、

民間制限線北側地域に対して実施していた銃器捕獲を、民間の専門ハンターと合同し、より一層強化・支援し、イノシシ死体搜索活動も拡大することにした。

また、境界地域や山岳地帯など防疫が難しい地域に対する航空防疫と非武装地帯通門出入り車両、人員に対する防疫措置もより一層強化して実施中である。

農食品部は境界地域に対する集中消毒と共に、ASFが農場に侵入しないよう農場単位の防疫措置を大幅強化する。

農場周辺と農場、畜舎内部に野生鳥獣類・ネズミ・ハエなどのベクターや車両、人によってウイルスが伝播しないよう、フェンスと防鳥ネット、防虫ネットなど防疫施設設置、農場洗浄・消毒、生石灰ベルト構築など防疫措置、手洗い、長靴の履き替えなど防疫基本規則遵守など9分野23個の規則を示し、全国6,300戸の農場すべてに配布した。

また、農場単位防疫措置が迅速に履行されるように全国 6,300 戸の養豚農家別に専門担当コンサルタント(955 人)を指定し、1 対 1 でコンサルティングを実施する。

4 月からは中央・地方自治体合同点検班を編成し、全国養豚農場の防疫措置を点検して、法令違反があった場合は罰則を賦課する計画である。

ASF 中央事故収拾本部は「春季以降もイノシシ ASF 拡散を防ぐために全力を挙げる」と述べ、「発生地域農家での人の出入りが増加すると ASF 拡散が憂慮されるため、イノシシでの ASF 発生地域住民の方には、発生地域近隣産地とフェンス内出入りを自制し、フェンス出入り口管理に協力してほしい」と呼び掛けた。

以上